

海棠の花の美しさ

拓殖大学留学生別科 李 娜（中国）

「夜中の四時に目がさめた。海棠の花は眠っていないかった。」中学生の頃、初めて川端康成の文章を読んで、こんな簡単な文に感動した。作者は心を込めて生活を観察し、誰も気にしていない花の美しさに気付いたのだ。

空が澄み渡った、日本に来て初めての日の事である。駅のプラットホームで電車を待っていると、ある駅員が車椅子を押して来た。車椅子の上にお年寄りが座っている。すぐに電車が来たが、もう一人の駅員が鉄の敷き物を持って、電車とプラットホームの間に跪いて敷いた。それから、駅員は車椅子を押して電車に乗った。また、電車が離れていった後に、その駅員は鉄の敷き物を箱に戻した。これを目にして、川端康成の文章をすぐ思い出した。その眠らない海棠の花がありありと目に浮かんだ。私も友達も何も言わなかったが、心中にショックを受けていた。日本人はこのような普通の事に慣れていますが、中国では、公共の施設があまり整っておらず、駅員もほんどいないので、体が不自由な人はあまり出かけない。そして、私にとっては初めて見た事なので、深い思索に入り込んでしまった。平凡な駅員は普通の仕事でも、やはり一生懸命に働いている。彼らのような真面目な日本人は海棠の花のようだと思う。普通の海棠なのに、黙々と素敵な花を咲かせている。

千里の道も一歩から、留学にとつて重要なのは一歩を踏み出す事だ。駅での出来事だけでなく、衣食住についても深い印象が残っている。例えば服だ。私は家から駅まで遠かった。自転車を買うつもりで、友達と一緒に自転車の店へ行った。店の中の、ある中古の電動自転車はどれもきれいだが、値段が高い。私は日本に来たばかりで、お金があまりなかった。それで、お店の人に分割にして欲しいと頼んだら、お店の人はちよつと困って考えていた。しかし、店員は友達の間を見つめてくれた。実は、友達が会社の制服を着ていたので、びっくりした事に、服だけを見て信じてくれたのだ。中国では、このような会社の制服はどこでも買えるから、あまり信用されない。しかし、日本ではこのような制服にそんな信憑性があるので、日本の社会全体が信頼できると思う。外国人なのに、信じてくれた事は十分に感動した。日常生活の中で小さい事なのに、小さな海棠のようで、徐々に香りが心に沁み渡って来た。

食事についての事も記憶に新しい。中国では、食糧は人々の生活で何よりも大切だと考えられる。居酒屋でアルバイトをしている時、毎日消費期限が切れそうな食品は、店の後ろに捨てた。おかしな事に、捨てるのに、その食べ物きれいに、気をつけてその場所に置いていた。私は要らないものなのに、なぜ注意して捨てるのかと店長に聞いた。店長はその食べ物のごみではなくて、ホームレスの人が自由に取れるから、食べ物きれいでなければ、ちよつと失礼だと思われると言った。人々が社会の弱者に関心を持っている、このような社会はますます進歩すると考えられる。店長のような人たちは海棠の花のようで、注意して見なければ、その美しさを発見するのは難しい。

また、住む事について感動させられた事もある。私の住んでいるところはとてもきれいで、周りの景色も美しい。しかし、玉に瑕なのは付近にある建物が新築されているため、時々工事現場から騒音が聞こえる事である。ある日、見知らぬ人が私のうちのドアを叩いた。気をつけてドアを開けた。すると、全身に大汗をかいた男性がずっとお辞儀をしながら、謝っていた。彼は隣の工事の担当者だった。彼は工事のために、いつも付近の住民に迷惑をかけている事を詫言、タオルをプレ

ゼントとして住民に配った。この担当者が自分の事ばかりでなく、住民の身になって、よく相手のためを考えている事に非常に感動した。

駅員、自転車の店員、居酒屋の店長、工事の担当者のような人たちは社会の中で平凡な人であり、まるでどこにでもある海棠の花のようだ。皆は、こんな綺麗な花が咲いていても、気にしないで生活している。しかし、もし目に留まれば、眠らない海棠の花の美しさが発見できる。それで、私たちも周りの人たちによく注意すれば、人間性の美しさが感受できるのではないか。社会は様々な平凡な人々によって構成されていて、普通の人ながら、海棠の花のように清^{すが}清^{すが}しい香りを放っていて、人間性の魅力を発散している。私にとって、目に映る景色は、まじめに働いている日本人や、信頼性が高い人間関係や、弱者に関心をもつ事や、お互いに尊重し合う事などである。心を込めて生活を観察しさえすれば、美しい人間性に気付く。それは私が留学して、体験した事だ。

「夜中の四時に目がさめた。海棠の花は眠っていなかった。」

